

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

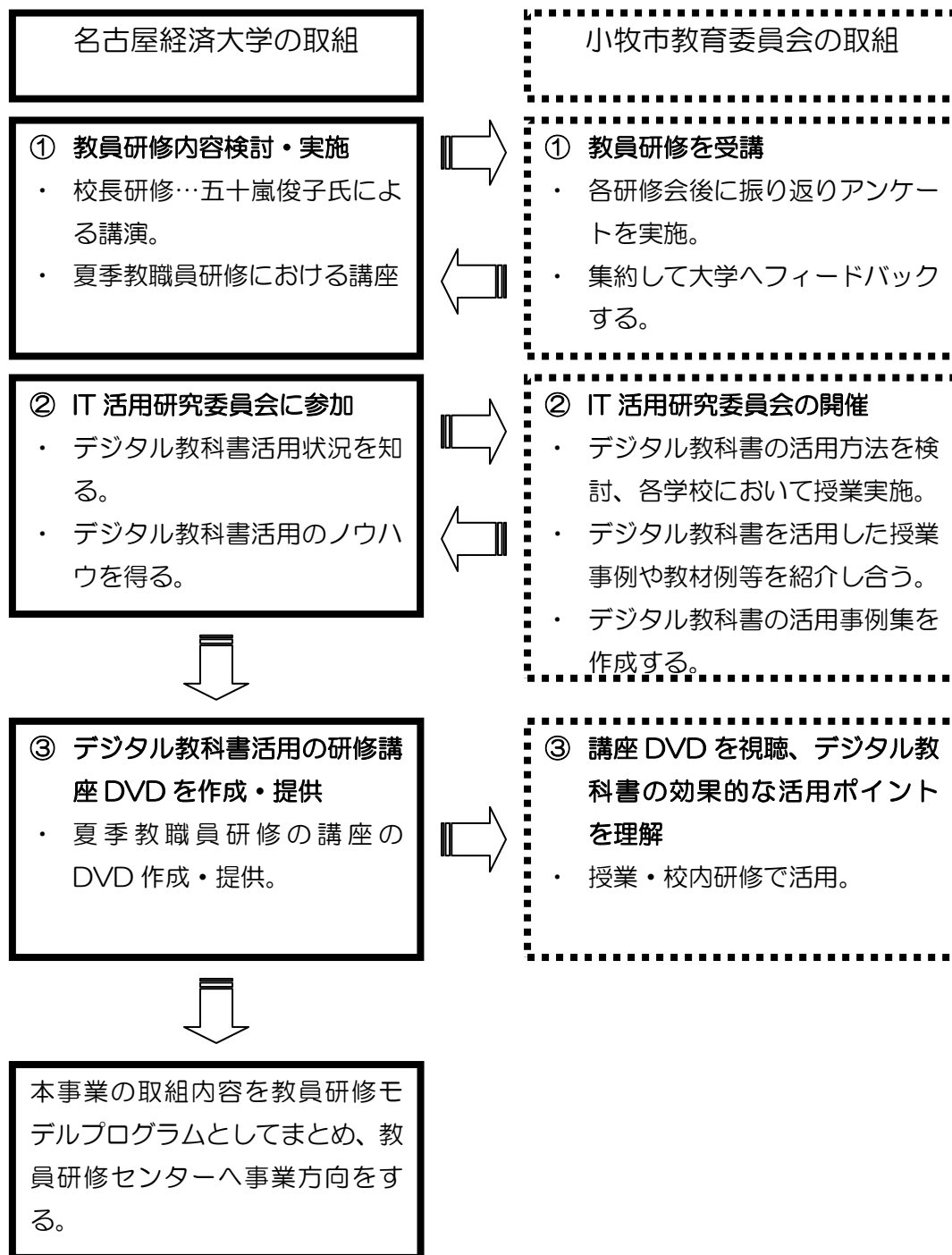
## 報 告 書

プログラム名	ICT を活用した「学び合う学び」推進を支援する研修プログラム
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>● 小牧市では、教育委員会ネットワークの整備や小中学校全教室（一部除く）の LAN 及び PC と大型テレビ、モニター設置など IT 環境が整備されている。また、児童生徒の「学び合う学び」をめざすとともに、各教師間・各学校間でも互いに学び合う各種教職員研修を継続して行っている。その利点を生かし、発展させながら、「教育の情報化ビジョン」に掲げられている「21 世紀にふさわしい学びと学校の創造」に向けて、次の研修を実施した。</li><li>● 既存の教職員研修に、「教育の情報化ビジョン」実現に向けた内容を加えた。具体的には大学の専門家による、①夏季研修における講義（テーマ：子どもの IT 環境の現状など）、②校長会における講義（テーマ：21 世紀にふさわしい学校教育の実現に向けての流れなど）があげられる。</li></ul>

平成 25 年 3 月

名古屋経済大学 小牧市教育委員会

プログラムの全体概要  
ICT を活用した「学び合う学び」推進を支援する  
教員研修カリキュラムのプログラム開発における連携内容



(別紙①「ICTを活用した「学び合う学び」推進を支援する教員研修カリキュラムのプログラム開発における連携内容」H24.5.31 参照)

## I 開発の目的・方法・組織

### 1. 開発目的

平成 20 年 1 月に小牧市と名古屋経済大学は連携強化協定を結んだ。その成果として、小牧市教育委員会学校教育課との連携事業では、平成 21 年度より本学の学部生を「学習チューター」として、小牧市立幼稚園・小学校・中学校へ派遣している。また名古屋経済大学人間生活科学部教授・伊藤健次は平成 23 年度小牧市教育ビジョン推進会の委員であり、同大学経営学部教授・柴田良一は、長く小牧市情報教育 IT 推進委員会委員である。特に後者は小牧市における情報教育及び IT 整備に関する方針の検討を担っている。

小牧市教育委員会では、そこでの検討を受けて、近隣他市に先駆けて校務の情報化を図り、また市内小中学校の IT 環境整備を充実させてきた。さらに平成 24 年度には、市内全小中学校にデジタル教科書が導入された。それらを含めて今ある環境を生かした ICT 教育の普及・発展が望まれている。

また、小牧市教育委員会では、児童生徒一人残らず学びを保障する「学び合う学び」を提唱している。教員間、学校間でも互いに学び合う風土づくりに努め、その機会となる各種研修会を充実させてきた。今後は、研修をいかに多くの教員に広めていくかが課題である。

これらを背景に、小牧市教育委員会と連携し、名古屋経済大学は ICT を活用して「学び合う学び」の推進を支援し、2020 年の「21 世紀にふさわしい学校教育の実現」に向け、下記のような教員研修カリキュラムのプログラムを開発した。

### 2. 開発の方法

平成 20 年 1 月に小牧市と名古屋経済大学は連携強化協定を結んでいる。具体的には、平成 21 年度より小牧市立幼稚園・小学校・中学校へ名古屋経済大学より学生チューターを派遣しており、名古屋経済大学と教育委員会は密に連絡を取り合っている。また名古屋経済大学経営学部教授・柴田良一は小牧市情報教育 IT 推進委員会委員として小牧市における情報教育及び IT 整備に関する方針の検討にあたってきた。

本件の申請にあたり、名古屋経済大学は教員研修プログラム開発プロジェクトチームを発足させ、柴田をはじめ人間生活科学部学部長・小林修教授および同学部准教授・伊藤博美を中心に小牧市教育委員会・情報教育担当主事（申請当時）の栗木智美と、平成 23 年 12 月から協議を重ねてきた。同時に小牧市教育委員会 IT 活用研究委員会（校長会下部組織）委員長の神戸和敏や、小牧市の「校務の情報化」を進めた現・海部教育事務所所長（申請当時、現・小牧中学校校長）の玉置崇からヒアリングを行い、2020 年「教育の情報化ビジョン」の実現を視野に入れながら、現職教員のニーズに応える研修のあり方を検討した。

### 3. 開発組織

ICT を活用した連携協議会とするため、主に次の5回で face-to-face の会合を行った。

第1回（4月） 名古屋経済大学・小牧市教育委員会の平成24年度の顔合わせ、教職員研修（校長会等・夏季研修）の日程確認・具体的内容の話し合い。

（別紙②「第1回 ICT 活用教員研修連携協議会議事録」参照）

第2回（7月） 第2回 IT 活用研究委員会による「デジタル教科書活用のポイントⅠ」への名古屋経済大学教員の参加。

第3回（8月） 夏季教職員研修終了後、24年度上半期の研修実施について報告および評価。また24年度下半期の活動予定の検討・確認。

第4回（10月） 第3回 IT 活用研究委員会（校長会下部組織）による「デジタル教科書活用のポイントⅡ」への名古屋経済大学教員の参加。

第5回（11月） 第4回 IT 活用研究委員会と名古屋経済大学教員の「春日井市立出川小学校発表会」への参加。

第6回（1月） 第5回 IT 活用研究委員会による「デジタル教科書活用のポイントⅢ」への名古屋経済大学教員の参加。

その他には主に名古屋経済大学から伊藤博美が中心となり、小牧市教育委員会からは大藪徹也が中心となって、電子メールでコミュニケーションをとった（3月29日現在、230通）。

## II 開発の実際とその成果

### 1. 小牧市校長会

（別紙③「研修会講師のお願いについて（依頼）」参照）

（別添④DVD「東京都日野市立平山小学校長 五十嵐俊子先生  
「未来の教室づくりについて」」参照）

- 研修の背景やねらい

ICT を活用した協働的な学習・学校力を高める校長の役目等を理解する。

- 対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：小牧市内の小中学校校長他、名古屋経済大学の教員、小牧市教育委員会指導主事 計25名、

日程・期間：6月5日（火）13～14時半、

会場：小牧市勤労センター、

講師：五十嵐俊子先生（東京都日野市立平山小学校校長 中央教育審議会初等中等教育分科会委員）

- 各研修項目の配置の考え方

本研修プログラムにおいて、第一に、デジタル教科書導入を控えた各小中学

校の校長を対象に研修することが肝要と考えた。

- 各研修項目の内容、実施形態、時間数、使用教材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
校長の役目等の理解	90分	ICTを活用した協働的な学習・学校力を高める校長の役目等を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容 未来の教室づくりについて</li> <li>● 実施形態 講演</li> <li>● 使用教材 講師作成 PowerPoint</li> <li>● 進め方の留意事項 質疑応答の時間を取った</li> <li>● その他</li> </ul>

- 実施上の留意事項

デジタル教科書の市内全小中学校への導入を見据え、現職の校長として ICT を活用した授業実践や学校づくりを進めている方を講師として選定した。

- 研修の評価方法、評価結果

記名式自由記述アンケートによる。内容を分類した結果は次のとおりであった。

ICT を活用する学校づくりにおける校長の役割を認識できた……14 名  
日野市と比べて、小牧市の課題が認識できた……4 名

- 研修実施上の課題

日野市と小牧市の小学校の ICT 環境の違いを考慮に入れ、ICT 活用の可能性を検討する必要があった。

## 2. 小牧市夏季教職員研修

(別紙⑤「更新 No. 4 2012/07/31」参照)

- 研修の背景やねらい

(ア) 教員と子どもとの間には ICT を活用した生活環境に大きな開きがある。子どもたちの ICT 環境を的確に理解することによって、児童生徒の情報モラル・情報リテラシーの習得を検討する。

(別添⑥DVD「名古屋経済大学 柴田良一先生「子どもや家庭における ICT 活用社会の実態を理解する」」)

(イ) また、9月以降のデジタル教科書の導入を目前に控え、ICT を活用した授業づくりの可能性を、デジタル教科書の基礎的な機能を確認することを通して検討する。

(別添⑦DVD「名古屋経済大学 「デジタル教科書活用のポイント」」)

○ 対象、人数、期間、会場、日程、講師

いずれも小牧市教育委員会による夏季教職員研修の参加者が対象である。

(ア) 対象・人数：市内小中の教員20名、誉高校の教員1名、幼稚園の先生が1名の合計22名の教職員

期間・日程：8月6日（月）9：30～12：00

会場：小牧市勤労センター

講師：柴田良一（名古屋経済大学経営学部教授）

(イ) 対象・人数：小牧市小中の教員79名

期間・日程：8月9日（木）13：30～16：00

会場：小牧市勤労センター

講師：伊藤時彦、片田保彦、横井正則（以上、名古屋経済大学人間生活科学部講師）、伊藤博美（同准教授）、近藤利恵（同経営学部教授）、柴田良一（同経営学部教授）

（別紙⑧「国語科 デジタル教科書の活用」参照）

（別紙⑨「第6学年社会科学習指導案（デジタル教科書使用）」参照）

（別紙⑩「5年生「理科」（東京書籍）」参照）

（別紙⑪「小牧市教職員研修ICT研修デジタル教科書活用のポイント(算数)」参照）

（別紙⑫「～NEW HORIZONBook 3 Unit A fireworks Festival を例に～」参照）

（別紙⑬「中学2年 数学「確率」参照」

○ 各研修項目の配置の考え方

第一に、ICT環境の変遷や、現在、教員や保護者の認知しづらい子どものICT環境について概要を理解することをねらいとし、第二に、目前に迫ったデジタル教科書の導入について具体的な検討を図ることをねらい、配置した。

○ 各研修項目の内容、実施形態、時間数、使用教材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
(ア)子ども・家庭のICT社会の実態	150分	子どもや家庭におけるICT活用社会の実態を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容 ICT環境の現在までの流れ、現在の子どものICTの生活環境。</li> <li>● 実施形態 講義</li> <li>● 使用教材 講師作成 PowerPoint</li> <li>● 進め方の留意事項 特になし</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>● その他</li> </ul>
(イ)デジタル教科書活用のポイント	150分	各教科デジタル教科書の活用できる場面の可能性を検討する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容 小学校国語・社会・算数・理科、中学校英語・数学の一単元を例として、デジタル教科書を活用した授業の事例</li> <li>● 実施形態 講義</li> <li>● 使用教材 デジタル教科書、講師作成の指導案およびPowerPoint</li> <li>● 進め方の留意事項 複数教科のデジタル教科書について操作方法から紹介した</li> <li>● その他</li> </ul>

○ 実施上の留意事項

夏季教職員研修に盛り込んだため、できるだけ多くの教員が参加できるように講座の日程・時間に配慮した。また、初めてデジタル教科書に触れる教職員を対象に、多くの教科について操作方法から紹介した。

○ 研修の評価方法、評価結果

アンケートによる自由記述。感想を分類すると代表的なものは次のとおりであった。(別紙⑭「デジタル教科書活用のポイント」参照)

複数の教科・単元の活用を知ることができて良かった。

今後各教科でどのように活用できるか、デジタル教科書に触って考えていきたい。

使う教員の工夫が何より大切であることが確認できた。

デジタル教科書を使った実践をしてみてもうどうだったのか聞きたかった。

○ 研修実施上の課題

デジタル教科書に含まれているデジタルコンテンツを研修で網羅することはできないが、授業における活用事例については、先行的に導入された授業実践を紹介する方法があったといえる。その場合、各学校種・各教科で分かれての研修とする必要があるだろう。

### 3. 東京都日野市立平山小学校公開研究会

○ 研修の背景やねらい

1の校長会研修で平山小学校の実践に興味をもった受講者がいたことから、平山小学校の公開研究会への参加を企画した。未来の教室がどのように実現されているのか、授業を参観することを通して理解することをねらった。

○ 対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：小牧市教職員、名古屋経済大学の教員

人数：4名（小牧市教育委員会指導主事1名、名古屋経済大学教員3名）

○ 各研修項目の配置の考え方

本研修プログラムの締めくくりとして、1の校長会研修の講師を務めていただいた五十嵐俊子校長先生の平山小学校の公開研究会に参加し、ICTを活用した授業実践に直接触れることをねらった。

○ 各研修項目の内容、実施形態、時間数、使用教材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
ICTを活用した授業実践の参観	390分	ICTを活用した授業実践（「未来の教室」）を理解し、授業づくりのヒントを得る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロモーション動画による公開授業の紹介</li> <li>・ 公開授業①（1年算数「かたちあそび」／3年総合「浅川フィールドワーク」／4年算数「広さを調べよう」／5年算数「きまりをみつけて」／6年国語「きつねの窓」／特別支援学級算数「いくら？（お金の学習）」）</li> <li>・ 公開授業②（2年国語「考えたものをしようかいしよう」／2年体育「お話マット」／3年理科「じしゃくのふしぎをさぐる」／4年社会「島の自然を行かした人々のくらし」／5年国語「大造じいさんとがん」／6年国語「『連詩』を発見する」／6年算数「生活の中の算数」）</li> <li>・ 全体会「新たな学びの創造～小学校から大学まで～」（パネリスト：中川一史（放送大学）、東原義訓（信州大学）、板東久美子（文部科学省高等教育局）、上月正博（文部科学省審議官））</li> </ul> </li> <li>● 実施形態</li> </ul>



			<p>公開授業の参観、パネルディスカッションの視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 使用教材 デジタル教科書、タッチパネル式PC、タッチパネル式大型モニターほか</li> <li>● 進め方の留意事項 特になし</li> <li>● その他</li> </ul>
--	--	--	--

- 実施上の留意事項  
小牧市教育委員会と市内校長全員の会合と日程が重なっていたため、市教委区委員会側の参加者が1名となった。
- 研修の評価方法、評価結果  
研修終了後、名古屋経済大学からの参加教員3名で内容についてディスカッションし、ICTを活用した授業実践には、ハード面での整備が大きく影響することを共有した。また、小牧市教育委員会からの参加教員1名については、平山小学校の授業実践が素晴らしく大いに刺激を受けたというコメントが電子メールであった。
- 研修実施上の課題  
公開研究会への参加は、出張できる教員の数が限られるため、その教員からの研修成果の発信によって教員への共有が可能と思われる。

### Ⅲ 連携による研修についての考察

#### ・ 連携を推進・維持するための要点

第一に、本事業を推進するには事業計画立案以前からの連携体制の確立が不可欠であった。3頁（開発の方法）でも示したように、本事業の場合、平成20年から小牧市と名古屋経済大学が連携強化協定を結び、その成果として、小牧市教育委員会学校教育課との連携事業として、名古屋経済大学の学生が「学習チューター」となり、小牧市立幼稚園・小学校・中学校へ派遣されていたこと、名古屋経済大学経営学部教授の柴田良一が小牧市情報教育IT推進委員会委員として長く小牧市における情報教育およびIT整備に関する方針の検討を担ってきたことが大きかった。

第二に、本事業の遂行にあたっては、小牧市教育委員会の教員研修担当指導主事・大藪徹也と名古屋経済大学の各教員とのコミュニケーションだけでなく、小牧市教育委員

会担当指導主事と校長会、IT 活用研究委員会との綿密なコミュニケーションの成果によって、名古屋経済大学の教員に対し、研修の目的や内容が提示された。

なお、IT 活用研究委員会は『平成 24 年度デジタル教科書活用事例集』（別添⑮『平成 24 年度デジタル教科書活用事例集』）をまとめられたことをここに記しておく。

#### ・ 連携により得られる利点

連携による利点は、市教育委員会側と大学側とで異なる。

市教育委員会側からすれば、現状把握を、大学を始め外部に求められることにある。例えば教育委員会を介して、市の小中学校の現状を大学にも理解させた上で、研修を担当する講師などの依頼が可能である。

大学側としては、市教育委員会を通して小中学校の現状を理解した上での教員養成が可能になることである。例えば、市立小中学校における ICT のハード環境や、市立小中学校における子どもたちの学び合いの実践を理解した上で教員養成の授業を計画できる。実際、今回の研修プログラム開発に関連して、例えば「教育の方法・技術」ではデジタル教科書を用いた指導案の作成や ICT を活用した授業実践を行うことができた。

#### ・ 今後の課題等

本事業においては、夏季教職員研修を実施して以降、大学側からの発信が弱かったために、主にメールでのやりとりで事業を遂行することとなり、十分なコミュニケーションが図れたとは言い難い。したがって、連携における今後の課題は、コミュニケーションの機会を増やすことである。

また、ビデオカメラで撮影された授業実践記録について、インターネット上で配信するためには、肖像権などプライバシーの問題や、市教育委員会と大学それぞれが管理運営するサーバー間のセキュリティーや予算の問題が障壁となり、結果として DVD を小牧市内各小中学校に配布する形となった。これらの問題に加え、撮影された記録映像の編集など、残された課題は大きい。

## IV その他

[キーワード] (5つ)

ICT 活用、デジタル教科書、夏季教職員研修、他校公開研究会（研究授業）、DVD

[人数規模] D (51 名以上) (補足事項 最少 4 名、最多 7 9 名 )

[研修日数 (回数)] C (4 ~ 10 回) (補足事項 ただし IT 活用研究委員会は除く )

**【問い合わせ先】**

名古屋経済大学

人間生活科学部教育保育学科

〒484-8504 愛知県犬山市内久保6-1-1

TEL 0568-67-0511 (大学代表)

---

愛知県小牧市教育委員会事務局

学校教育課

〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目1番地

TEL 0568-76-1165